

花見

赤谷慶子

いま、櫻前線は日本列島を北へと上りつつあり。櫻の樹は幼少の頃より常に近くにありき。吾育ちし世田谷區奥沢の我家の敷地内に大きな洋館あり、そは門より玄關に及ぶまで十本近くの櫻植われり。祖父母にとりての初孫は吾より十歳年上の従姉妹にて、その名を櫻子と命名し、これがために植樹したりき。二十八年前白金台に家を建てしに植ゑし櫻も大木に育ち、春には満開の櫻窗前面に見えたり。その後再び奥沢に戻り、従姉妹家建て替へし時に北側に植ゑし二本の櫻の樹は、春ごと窗より満開の薄桃色の入道雲と見誤るほどの大木になれり。従ひて櫻狩りに行く要を見いださねど、一昨年の晩秋に高輪方面に家移りし、窗より櫻を愛づる事能はざりき。近くに小さき公園あり、かしこには數十本の櫻植わりて、その下に宴會する近隣の人ども目撃すること多けれど、おのればかりの櫻にはならず、口惜しき限りなり。

昨日、親友の誕生日を祝はむがため九段の佛蘭西食堂へ行き、歸路、千鳥ヶ淵の櫻を愛でたり。千鳥ヶ淵の櫻は堀にせりいだし、水面に映りし櫻も併せ、夜は妖艶筆舌に盡し難き絶景なり。中學校・高校と米國の首都ワシントンに在在中、ポトマック川に面せしタイダル・ベイソンの櫻も眞に麗しかりき。櫻は開花して三週間にて散る定めなれば、人は尚更その儂きに引かるるにあらずや。櫻の盛り三箇月に及ばば春の有様如何ならむと偲ぶことあり。

(令和五年三月二十九日受附)